

【イベント】
芝山ギネス大会
 (芝山古墳には博物館駐車場)
古代体験村
 火おこし、古代チーズの試食等
 (芝山古墳には博物館)
ミニS1 (芝山公園駐車場)

はにわ祭

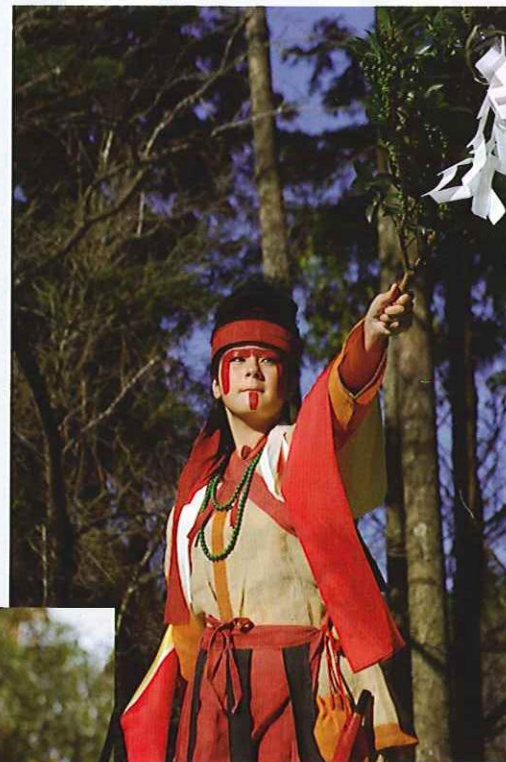
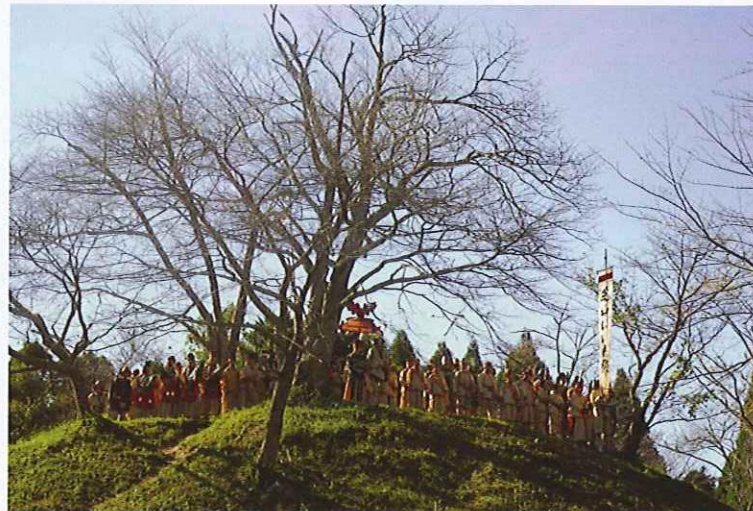
この芝山町に人々が生活し始めたのは1万年以上も前に遡ります。特に古墳時代後期と言われる5世紀中頃から7世紀の初頭にかけて、見事な文化の華を咲かせたことは、出土するはにわ遺物から見て、明らかです。

古代はまさしく大自然と闘い、共存していた時代です。厳しく、優しい自然の中で、人々は力を合わせ、肩を寄せあいながら暮らしていたのではないのでしょうか。自然は人々に豊かな心を与え、人々は自然を愛し、絶えず暖かい心を通わせて暮らしていた時代。「はにわ」は、そんな時代の人々そのものなのかもしれません。

「はにわ祭」は、そのような「はにわ」が語りかけるものをま

っすぐに受けとめる祭です。人間本来の心を取り戻すこと——それは、物や金を人生の全てとすることなく、心豊かに暮らすことにほかなりません。

古代の衣装を身にまとい、心身を清め、わだかまりを捨て、現代に現れた古代の神々として登場する人々を、感謝と尊敬の気持ちで迎える「はにわ祭」。町をあげ、心を合わせてこの祭を行うことで、私たちは忘れられつつある「ふれあい」の気持ちを再認識できるはずです。一つの生活共同体とも言えるこの町を、そして暮らしている人々を、お互いにもっと大切にしていきたいと思います。それが「はにわ祭」なのです。



プログラム

8日目はにわ祭

降臨の儀 9:30~10:00 (殿塚・姫塚)
古代人の出現

- 殿部田神楽 ●神官の祝詞 ●古代人の出現
- 歓迎の辞 ●国造の御託宣
- 町長の誓詞 ●巫女の舞

交歓の儀 10:45~11:45 (芝山仁王尊)
古代人の来臨を仰ぎ歓迎の法要と現代人との交歓

- 古代人来臨 ●歓迎法要 ●巫女の舞
- 白樹粉屋踊

行列の儀 13:00~13:40 (芝山仁王尊~芝山公園)
古代人の一族が勢揃いし、行列を行う

- 古代人の行列 ●子供はにわみこし

歓迎の儀 14:00~14:30 (芝山公園芝生広場)
古代人と現代人との交流

- 委員長あいさつ ●歓迎の言葉 ●巫女の舞 ●白樹粉屋踊

昇天の儀 16:00~16:30 (芝山公園芝生広場)
古代人がメッセージを残して昇天する

- かがり火 ●現代人、古代人のメッセージ交換 ●昇天

産業祭・文化祭・商工まつり

- 産業祭 9:00~16:30 (芝山公園芝生広場)
- 地元産品即売 ●もちつき大会 ●ミニ動物園
- 文化祭 9:00~17:00 (中央研修所)
- 商工まつり 10:00~16:30 (芝山公園芝生広場)
- スタンプ福引大会 ●ウルトラクイズ ●大モチ投げ大会



協賛イベント 8日目

- 古代体験村 10:00~15:00 (芝山古墳・はにわ博物館)
勾玉づくり、火おこし、古代チーズの試食等
- ミニ動物園 (芝山公園芝生広場) ■ミニ SL (芝山公園駐車場)
- 芝山ギネス大会 (芝山古墳はにわ博物館駐車場)
(種目) 将棋積み、輪ゴム通し、小豆運び、ザ・We ight、突撃三銃士、フリースロー(バスケット)、ストラックアウト(野球)、キックターゲット(サッカー)

輝かしい未来に向かって

国造の御託宣

じんすさ 人心荒ぶり、混迷度を増す今の世なれば、我等が故郷ここ芝山にはにわ祭りを起こさしめ、人々に我等の念を伝え示さん。
今の世を去ること遥かなる昔、我が同朋心を合わせ、力を尽くし国起こしを行ふ。
即ち荒野を焼き、畑地を起こし、溝を穿ちて水田を拓く。
かくてこの里に黄金の稔、波寄するに至れり。
御子の御子御子、我らの営みのまにまにこのうましき郷土を守り伝う。
しかるに今人、太陽と大地の広大な恩恵を忘れ、物質文明の繁栄に酔いしれて、自ら人間の霊性を捨て去らんとす。
人々今にして自己の尊厳に気付くと共に、大自然の恵みに感謝するの念を起こさざれば、自縄自縛、遂に自ら作りしものに、人間存在の根底を奪われし。
希わくば我が子孫、人間の本来の姿に立ち返り、自ら命と呼び、

とむら 朋を神と崇めし、平けく安らけき心もて事に当たれ。
澄み切れる大気の中、緑濃き野山の内より滾々と清水湧き出で、集まりて川となり大海にそそぐ。
汝等聴かずや、時空を越えた滔々たる大地の賛歌を。
この我等らがうましきまほろばの里をおろがみ守りて子孫に伝えよ。
人々皆志を同じうする同朋、心を合わせ、輝ける未来のため努められよ。
誠必ずや、天に通じ、光明この地に充ち満たん。
さすれば、やがて人々これを讃えて四方つ国に於いて新しき国造りを行ふに至り、人々、気高き日の本の大和のところに包まれん。
日出づる瑞穂の国の八百萬の神々この事を愛で賜うべし。
吾れ、子子孫孫にこの事を伝へ、その浄業を促さんが為に招きに応じて出現せる者也